



特集 2

ぼくの わたしの

夏休み福祉体験日記

埼玉県社会福祉協議会では、子どもから大人まで、だれもが気軽にボランティア活動できるきっかけづくりのために、市町村社会福祉協議会などが実施主体となつて「彩の国ボランティア体験プログラム」を行っています。このプログラムは、埼玉県や市町村社会福祉協議会、ボランティア推進機関、関係団体が、様々な体験メニューを用意して、県民に対しボランティア活動の普及・啓発・育成を図ることを目的に実施しています。ボランティア活動には興味があるものの、「どうやって始めればいいのか、どんなものがあるかわからない」「自分に出ることがあったらやってみたいけれど・・・」と、これまでボランティアを始めるきっかけが得られなかった人たちのために、夏休みを中心にボランティア活動を体験してもらっています。

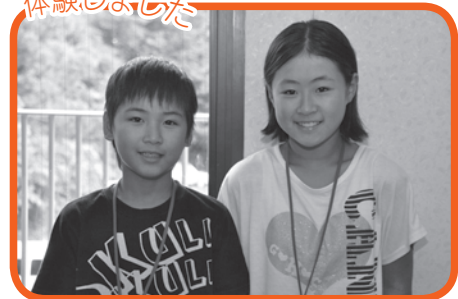
毛呂山町社会福祉協議会でも、夏休み期間を利用して、子どもたちを中心にボランティアを体験してもらつたため、「福祉ふれあい体験」事業として、様々なプログラムを用意し、毎年実施しています。

あいあい作業所



あいあい作業所での体験は、普段利用者が行っている商品の点検や梱包および児童館まつりへの出店の準備と運営、かたづけでした。障害がある人でも、できることはたくさんあります。参加者には、障害がある人たちと一緒に作業などをすることで、障害がある人たちへの見方を変えてもらうことを主な目的として作業所でのお手伝いを体験してもらいました。

わたしたちが体験しました



福嶋未羽さん（毛呂山小6年・右）
福嶋斗真くん（毛呂山小4年・左）

7月27日（金）

このような福祉体験には、二人とも初めて参加しました。初めは皆とうまくしゃべれなかったけれども、慣れてきたら、楽しくおしゃべりできるようになりました。今回は、児童館まつりにも参加をするということで、皆と一緒にイスヤ机を運んだり、絵を描いたりしたことが、一番印象に残っています。とても楽しい体験ができたので、またこのような体験ができるなう、やってみたいと思いました。

毛呂山町デイサービスセンター



デイサービスセンターでの主な体験は、利用者の話し相手やお茶出しのほか、夏祭りの準備と運営でした。高齢者との触れ合いのなかで人を敬う気持ちを養ってもらうこと、人生の大先輩である高齢者から様々な知恵を学び取ってもらうこと、そして世代間の交流を図ってもらうことを目的にこの体験は企画されました。

わたしたちが体験しました



工藤美奈さん（毛呂山中3年・右）
工藤李華さん（毛呂山中1年・左）

8月3日（金）

デイサービスセンターでのお手伝いは、今年で3回目になります。毎回、利用者の人たちから「ありがどう」といわれるときに嬉しく感じます。また、皆さんいろいろな話をしてくれて、今回は、戦争の体験を話してくれたことが最も印象深かったです。もっと利用者の人たちとたくさんお話をしたかったので、ぜひまた来たいと思いました。そして、今後も何らかの形で福祉に貢献をしたいと思えた3日間でした。

光の家療育センタークッキング体験

主な体験内容は工作とクッキングです。工作では、いろいろな折り紙を皆で折って作品を作り、クッキングでは、それぞれがチョコバナナパフェを作りました。

光の家療育センターの利用者として実施されました。どうすれば一緒に作業を行えるのか、それぞれが考え、学んでもらうこと、また普段訪れる機会のない光の家を知ってもらうことを目的として実施されました。



わたしたちが体験しました



山口美歩さん（泉野小6年・右）
山口美昂さん（泉野小2年・左）

8月9日(木)

初めて福祉体験をしましたが、とてもおもしろかったです。家でケーキなら作ったことがありましたが、今回のようなパフェは初めてだったので楽しく作れました。パフェ作りのほかにも皆と一緒に折り紙をしたのですが、初めて折るものもあったので、少しいへんでした。とても楽しい体験だったので、また体験したいと思いました。今度は、別の体験もしてみたいと思います。

社協だより作成体験

体験内容は、町役場と東公民館へ行き、ユニバーサルデザインとバリアフリーに関して自ら取材し、「社協だより」に掲載するための記事を作成しました。

自ら取材を行うことで、町内に福祉に関するものがどれだけあるのか気付いてもらうことと、調べたことを記事にすることで学んだことをより深く理解してもらうことを目的に行われました。

わたしたちが体験しました



陽穂さん（光山小4年・左）
宣孝くん（光山小1年・右）

8月14日(火)



家で「社協だより」や「広報もろやま」をよく見えます。取材で行った東公民館でユニバーサルデザインのものを探するのに少し苦労しましたが、慣れてくるとあちらこちらにいっぱいあるのが分かるようになり、楽しく取材ができました。でも、記事を書くために文章を考えたり作ったりするのが難しかったです。取材でいろいろな所に行くのは楽しかったので、またやってみたいと思います。

グループホームでの絵手紙体験

グループホームの利用者と一緒に絵手紙を作成し、それぞれが作成した絵手紙を交換するなど、利用者と交流をしました。

最近、メールなどですませてしまつたため、筆をとつて手紙を作成することは、めっきり減つてしまいました。そのようななか、人のために絵手紙を作成することで、相手を思いやる気持ちを学んでもらうために企画されました。



わたしが体験しました



わたぬき 綿貫 リカさん (川角小6年)

8月16日(木)

絵手紙体験は、昨年に続いて2回目になります。絵手紙は、細かく書いたり、絵に色を付けるのに濃さを変えて書かなくてはならないのでとても苦勞しました。利用者の皆さんがとても上手なのは、びっくりしました。私も色のめり方や影の付け方などを教えてもらったのできれいに書くことができましたと思います。

絵手紙を家で作ることはあまりないので、このような機会があったらまた参加したいと思いました。

広報録音体験

「広報もろやま」の読む練習をし、実際に「声の広報」を作成するため、録音を行いました。

ボランティアは直接相手に関わるものだけでなく、間接的にも行えるものであるということを知ってもらうことと、目の不自由な人に聞きやすく録音することをおして、相手に言葉で伝えることの大切さを実感してもらうことを目的に実施されました。

わたしが体験しました



いちむら みほ 実歩さん (毛呂山中3年)

8月20日(月)



私は小学校のときに放送委員をしていたため、広報録音に興味があったので初めて参加しました。聞く人が聞きやすいように話すのはとてもたいへんでしたが、聞く人の身になって話す体験ができたことは、日常生活にも活かせると思います。頑張って聞きやすいように大きくゆっくりと話すようにしたので、聞いてくれる人が聞きやすいと思ってもらえれば、とても嬉しく思います。今回とても貴重な体験ができました。

保育園 旭台保育園

保育園で実際に保育士の仕事を体験しました。子どもたちをプールに入れたり、遊んであげたり、食事の準備をしたりなど、様々な仕事を体験しました。

子どもを育てることは、とてもたいへんな仕事です。実際に子どもに接することで、一人ひとりの個性を認め、臨機応変に対応しなければならぬことを学んでもらうために実施しました。



初めての体験でしたが、普段の生活では、子どもと接することがないので、たった5日でしたが、子どもたちの成長が間近で見れて、とてもよかったです。保育士という仕事は、子どもたちに見えないところで、いろいろなことに気を配って仕事をしていることが分かり、とても勉強になりました。鬼ごっこなどで遊ぶうちに、自然と子どもたちが名前を覚えてくれたことが嬉しかったです。もう少し皆と一緒にいたかったです。

8月22日(水)

わたしが
体験しました



橋北 ももこさん (松山女子高1年)

子育てサロン体験

子育てサロンで使用する机やマット、おもちゃの準備とかたづけ。そして、子どもたちと一緒に遊んだり、体操したりしました。

子どもたちは、お父さんやお母さん、お兄さんやお姉さんのマネをします。子どもたちの行動を見ることで、自分自身の言葉遣いや友だちに対する態度などを見直すきっかけとなるよつこの企画を実施しました。



ボランティア活動は、今まで募金活動や「光の家療育センタークッキング」などに参加したことがありました。しかし、あまり交流ができるものではなかったのので、今回の子育てサロンでのお手伝いは、とても楽しくできました。子どもたちはすごく元気で、ちょっと疲れたけど、おもしろかったです。特にいろいろな人と交流ができたことがとても嬉しかったです。中学生になっても、またやってみたいと思いました。

8月23日(木)

わたしが
体験しました



大谷木 優里さん (毛呂山小6年)

大学生ボランティア大活躍!!

夏休み福祉ふれあい体験事業に、今年初めて地元大学生がボランティアとして、お手伝いをしてくれました。ここでは、ボランティアとして活躍した大学生の皆さんの声をお届けします。

社会福祉協議会にボランティア保険の加入手続きに行ったときに誘われたのがきっかけで、今回福祉ふれあい体験のお手伝いをする事になりました。

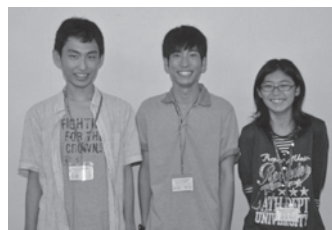
普段子どもたちに接する機会がなく、初めはどのように接したらいいのか、どのように話したらいいのかわからず苦慮しました。でも、子どもたちのほうから接してくれて、こちらから働きかけることもなく、いつの間にか仲良くなり、話もいっぱいできるようになりました。子どもたちと一緒にいろいろなことが勉強できたことで、自分たちにとってもいい刺激になりました。また、子

子どものころから「人形劇団」に所属していました。劇団では、福祉施設などの公演が多かったため、自然と福祉に興味をもつようになりました。今回、初めて福祉ふれあい体験のお手伝いをさせていただきましたが、実のところ地元で福祉関係のボランティアがなくて、自分で調べて申し込みました。

さすがに初めは小さな子をどう扱っていいのか分からず、苦労しましたが、終わるころには小さなお友だちもできました。小さな子から小学生、主任児童委員の人、ボランティアの人、社会福祉協議会の職員と本当にいろいろな人と話すこ

もと楽しく遊べる自信もつきました。

今回、このような経験をする事ができたのは、とてもよかったと思っています。福祉に対して興味をもつことができました。この経験を今後活かしていければと思います。



高橋直己さん(左)
田中智也さん(中央)
谷美和子さん(右)
(日本医療科学大学ほか)

とができて、いい経験になりました。

現在、大学4年生で福祉に関係する仕事へ就職が決まっていますが、今後も社会福祉協議会で行われるボランティアには、できる限り積極的に参加したいと思っています。



竹居潤さん
(東洋大学)

福祉体験は、福祉の「入口」に過ぎません。あくまで、きっかけ作りであり、福祉の種まきなのです。この体験をおして子どもたちが様々なことを感じとり、相手を思いやる気持ちを養ってもらえれば嬉しく思います。

毛呂山町には、福祉関係の様々な施設が存在します。地域にあるこれらの施設をぜひ知ってもらいたいと考えています。もしかしら障害のある人に対して「かわいそう」だと感じている人もいらっしゃるかもしれません。しかし、障害がある人もできることはたくさんあります。一緒に何かをすることでそれを学んでもらい、そのうえで自分たちには何ができるかを考えてもらいたいと思います。社会福祉協議会では、この福祉ふれあい体験を実施しています。

今回体験した子どもたちが、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、「共に暮らす」ということを理解し、広げていってもらうためのお手伝いが社会福祉協議会の役割だと考えます。



毛呂山町社会福祉協議会
宮永沙樹依さん